139年の歴史に幕を閉じる
東静内小学校閉校式

町立学校の再編整備により、3月に閉校する町立東静内小学校の『閉校式』が12月10日に同校で挙行され、在校生や保護者など約120人が参列しました。

東静内小学校は、明治16年に高静尋常小学校の分校として創立。昭和35年に最大児童数の442人（学級数12学級）となりましたが、少子化の影響から平成21年に川合小学校、平成24年に春立小学校と統合しました。

閉校式では、岡垣めい児童会長が「卒業する最後の日までみんなと笑顔で過ごしていきたい」と別れの思いを述べました。

校旗降納の様子

静内高校の生徒が
町の課題解決案を提言

静内高校で『日高地域の魅力発信』について3グループに分かれて探求し、「日高で音楽フェスを開きたい」「昔の新ひだか町に戻そう～レトロな街にするために～」「ライディングヒルズ静内の魅力を発信」の3点について、高校生の視点に立った課題解決案を提言しました。

静内高校で『日高地域の魅力発信』の授業を履修しているグループに分かれて探求し、「日高で音楽フェスを開きたい」「昔の新ひだか町に戻そう～レトロな街にするために～」「ライディングヒルズ静内の魅力を発信」の3点について、高校生の視点に立った課題解決案を提言しました。

生徒らは、町から提案された「若者向けの事業創造」「新ひだか町の馬

昔ながらの餅つきを体験
つきたての餅に笑顔があふれる

教育委員会主催の『わんぱく教室』が12月18日に公民館で開かれ、町内の児童40人が参加しました。

会場では、チーム対抗でミニ運動会が行われたほか、参加者は静内高校野球部員と協力し、杵と臼を使った昔ながらの餅つきを体験しました。そのほか、煎った大豆を石臼で挽いてきな粉を手作りし、最後に自分たちでついた餅を雑煮やきな粉餅にしておいしく食べました。

参加した児童は「つきたての柔らかいお餅を丸くするのが楽しかった」と笑顔で話し、友達と楽しい時間を過ごしました。

餅つき体験

野球部員による力強い餅つき

餅を丸める様子

ウシュバテソーロ号
東京大賞典制覇

『第68回東京大賞典（GⅠ・ダート2000㍍）』が12月29日に大井競馬場で開かれ、㈲千代田牧場（飯田正剛代表取締役・静内田原）の生産馬ウシュバテソーロ号が見事優勝を果たしました。

レースでは、同馬が力強い末脚を見せて完勝し、GⅠ初制覇となりました。

飯田貴大（たかひろ）専務取締役は「強くたくましい走りに感動しました。ここまで立派に育ってくれて何より。この勢いのままに今年も国内外を問わず盛り上げてほしい」と話しました。

©TCK（東京シティ競馬）

穏やかな冬空の下で景色を楽しむ
ライディングヒルズ初乗会

『令和5年ライディングヒルズ初乗会』が1月7日に同施設で行われました。

午前は、町内の乗馬スポーツ少年団や町内外の愛好者など16人が3組に分かれ、太平洋の広大な景色を望むコースで今年初めてのホーストレッキングを楽しみました。

午後は、場内で初心者に向けた曳（ひ）き馬によるポニーの体験乗馬が行われました。

参加者は「天気にも恵まれ、とても気持ち良く初乗りを楽しめました」と笑顔で話しました。

對馬（つしま）ハツヨさんへ白寿祝い贈呈

對馬ハツヨさんが1月2日に白寿を迎え、静内末広町の自宅で町から祝い状、社会福祉協議会から記念品が贈呈されました。

對馬さんは、旧三石町で生まれ育ち、結婚後は3人の子どもに恵まれ、町内の木材加工会社で事務員として働きました。

現在は孫が4人おり、読書やスポーツ観戦などで毎日を楽しんでいます。

「家族との温泉旅行がとてもいい思い出です」と語り、家族の方は「白寿おめでとう。これからも健康で、明るく楽しい日々を送れますように」と話しました。